

笛の音を轟かせて

アレグロ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ユクモ村に村付きハンターとしてやってきた主人公の活躍と、周りの人との交流を描いた作品、になればなあと思っています。

目次

プロローグ

ゴロゴロゴロ……

ザーザーザー……

(ひどい土砂降りだな)

「旦那さん旦那さん、もうすぐユクモ村だから辛抱するニヤ」

「ああ、ありがとう」

「しっかし、ひどい雨だなあ」

「この辺りは今の時期、気候は安定してるはずんだけどニヤア」

「そうなんだな……」

ザーザー……

ゴロゴロピカッ……

(ん？何だ、この妙な気配……)

(……今、森のなかで何か動いたような？)

「お、おいつ！ちよつと待て！」

「どうしたニヤ？」

「今、森のなかで……」

バキバキバキッ……

ゴロゴロゴロツ、ピカッ！

(な、何だ……!?)

暗闇の中、突如目の前に今まで見たことのない程の巨体が現れ、行く手を塞いでいるのがわかった。

「お、大型モンスターだニヤツ！」

「う、うわあああああああああ！」

「ぶ、ぶつかるニヤアアアツ!？」

ガツシャーン……

「……ってて」

(な、何が起きた?)

(と、とりあえず、状況を!?)

「な、なんだよ、こいつ……」

どうやら、馬車が目の前の巨体をかわした衝撃で、外に投げ出され

てしまったようだ。

・・・その突如現れたモンスターの目の前に。

暗闇の中で見えるモンスターは、全身を碧色の毛並みで覆われ、青白く発光している。

そのせいかわ、暗闇の中にも、その姿をはっきりと確認できる。

(な、何だよ、これ・・・)

(・・・こ、怖いつ)

(ただ、逃げようにも)

行くてはモンスターが塞ぎ、右手には深い森。

左手には切り立った崖が、ポツカリと口を開けている。

(どうすれば!?)

だが、そのモンスターは目の前のちっぽけな存在など意に介さず、遙か遠くを見据えている。

その立ち振舞は、恐怖を感じると同時に、なんとも言えない妙な気高さを感じる雰囲気を漂わせていた。

(つて、呆けている場合じゃない!)

(あいつ・・・こつちに気付いてない!?)

(今なら、逃げられるか!?)

(・・・あれは!?)

その時、崖の下を爆走している一台の馬車が目に入った。

(くそっ!どうする!?)

(・・・つて、迷ってる暇はねえだろ!!)

とつさに体を起こし、崖に向かって飛び出した。

巨体がちちらを一瞥した気がしたが、そんなことを気にしている余裕はなかった。

ドサバキツ、ドサドサツ

(・・・つあつぶねえ!)

「旦那!?無事だったニヤ!?

「な、何とかな・・・」

(し、しかし、さっきのあれは一体?)

後ろを振り返ると、さつき目の前に現れた狼のようなモンスター

が、まるで全身から雷を放出するように青白く発光し、雄叫びを上げているのが微かに見えた。